

高等学校「家庭基礎」で学ぶ高齢者福祉 — 指導案「梅子おばあさんの QOL を考える」—

藤女子大学家庭科・家政教育研究会

本稿は、2008 年に本研究会のメンバーが指導案を作成し、札幌市内 A 高校の家庭科の時間に授業実践した「介護保険制度と高齢者の QOL の向上」のための指導案に修正・加筆したものである^{1) 2)}。

家庭科で高齢者福祉について学習する意義は、高齢者の QOL の向上（高齢者自らが望む自分らしい生活の実現）のためには、社会的支援（介護保険制度を中心に）だけではなく、高齢者の生活実態を捉え、その日常生活欲求に沿った支援体制を構築していく必要があることを理解するところにあると考える。

具体的な登場人物（花川梅子おばあさん）の身体的特徴、日常生活の状況（衣・食・住生活の状況や家族構成などを含む）を示し、介護保険制度による在宅サービスの利用、さらにおばあさんの心の内を日記（「梅子おばあさんの縁側日記」）という形で資料作成し教材とした。この授業に入る前段階では、高齢社会の現状や高齢者の経済生活の特徴などについて学習しているとより望ましい。

今回修正を加えたのは、新学習指導要領にもとづく教科書用に見直した点、また、高齢者の「生活時間表」の作成を追加し、高齢者の一日の生活状況について生徒がより具体的に捉えられるようにした点である。

教科書については、採用している出版社によって多少の修正が必要である。また教科書の記述内容に関して順番を追った進め方ではなく、高齢者福祉と共生社会における社会保障分野を合わせて 2 時間分の指導案となっている。これに高齢者の生活時間表の作成を加えるとさらに 1 時間の授業時間を追加する必要があると考える。

いずれにしても、この指導案をベースとしてさらに追加や改良を加えて広く皆さんに利用していただきたく、ここに掲載する。

なお、今回追加した高齢者の生活時間表「梅子おばあさんのある一日」の作成にあたっては、本学人間生活学科の授業「テーマ研究 A」において、足立瞳さん、岩崎遥さん、菅原菜菜美さん、奈良山瑞穂さん、西川絵梨さん、深澤麻依さんのグループが作成したものに若干の修正を加えた。

注

- 1) 飯村しのぶ・岡崎由佳子・田中宏実・坪田由香子他：生活を総合的に捉える家庭科教育における「高齢者の生活と福祉」学習内容のあり方 —「家庭基礎」と「現代社会」における介護保険制度学習の比較をとおして—、藤女子大学 QOL 研究所紀要、第 3 巻 1 号、2008、p. 25-40、生活を総合的に捉える家庭科教育における「高齢者の生活と福祉」学習内容のあり方（2）—高等学校における「介護保険制度」の授業実践およびその検討—、藤女子大学 QOL 研究所紀要、第 4 巻 1 号、2009、p. 27-37
- 2) 藤女子大学家庭科・家政教育研究会：高等学校「家庭基礎」用学習指導案 題材：「介護保険制度と高齢者の QOL の向上」、家庭科・家政教育研究、第 4 号、2009、p. 83-93

表－１ 学習計画・学習目標

1. 単 元 第3章 高齢期を生きる

未来を拓く・高校家庭基礎 大修館書店 平成13年版

2. 単元の目標

- 1) 生涯発達の視点で高齢期を位置づけ、高齢者の心身の変化の特徴を理解する。
- 2) わが国の高齢社会の特徴と高齢者の暮らしに関心をもち、高齢者を肯定的にとらえられる。
- 3) 高齢者の生活を支えるしくみとしての介護保険制度及び家族・地域の果たす役割が重要であることを認識する。

3. 単元の学習計画

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1) 日本の高齢社会の特徴と高齢者の暮らし | 1 時間 |
| 2) 介護保険制度と高齢者のQOLの向上 | 2 時間（本時） |
| 3) 高齢者の心身の特徴、高齢期の生活設計と生活の課題 | 2 時間 |

4. 本時の題材 介護保険制度と高齢者のQOLの向上

5. 本時の目標

高齢者の生活を支えるしくみとしての介護保険制度の内容を高齢者の生活実態や生活要求と結びつけて理解することを通して、高齢者にとってより「自分らしい生き方」（QOLの向上）を実現することの大切さを認識し、高齢者を尊重する態度を育成する。

6. 本時における評価の観点

梅子おばあさんの事例を通して、介護保険制度のしくみやサービスの内容を理解するとともに、家族や地域と高齢者の生活との関わりについて認識する。

- 1) 関心・意欲・態度
 - ①高齢者にとってより「自分らしい生き方」を実現することの大切さに気づく。
 - ②高齢者の生活や福祉に関心を持ち、高齢者を肯定的にとらえられる。
- 2) 思考・判断

介護保険制度の利用をとおして、高齢者を支えるための社会および家族や地域の果たす役割が重要であることを認識する。
- 3) 知識・理解
 - ①介護保険制度の概要やしくみとおもな福祉サービスについて理解する。
 - ②梅子おばあさんがどのように「自分らしくいきたい」と考えているかを理解し、QOLの向上につなげて理解することができる。

表－２ 学習指導案 「介護保険制度と高齢者のQOLの向上」（１時間目）

本 時 の 指 導 計 画

指導 過程	学習内容	学 習 活 動	備 考	時間
導 入	前時の復習	「日本の高齢社会の現状」「高齢期の心身の特徴」で学習した内容を思い出す 高齢者人口の割合、日本の高齢化のスピード、後期高齢者の増加 など	グループワークの指示 発問 1・2人の生徒に聞く	2
	本時の学習	本時の学習内容 1. 介護保険制度のしくみや主なサービス内容について知る。 2. 「梅子おばあさん」の事例にあてはめ、サービスの利用を具体的に考える ＜授業の流れ＞ 介護保険制度→梅子おばあさんの事例→おばあさんが困っていること→改善策は？	教科書のp.49のQOL(生活の質) 教科書のp.49～57 短冊を利用	3
展 開	1. 介護保険制度	介護保険制度とは？ 1)成立と制度の目的 2000年4月施行 目的:①高齢社会の現状を背景に、高齢者の自立した生活を支える ②介護負担を社会全体で分けあい孤立した家族を開放（介護の社会化） 2006年4月改正施行・目的 2012年一部改正施行・目的 地域包括ケアシステムの構築 2)保険料と受給の対象者 加入者……40歳以上の全国民が保険料を負担(高齢者は年金から徴収) 被保険者……65歳以上(原則)で要介護状態にある人 3)利用料 サービス利用の際に、費用の10%を自己負担	教科書p.57 図表7 および 資料－1 により説明	7
	2. 梅子おばあさんの生活状況や気持ちを理解する	事例から具体的に考えてみよう 1)「梅子おばあさん」の生活状況を知る A:身体的状況 B:日常生活の状況 C:おばあさんの希望 D:息子の希望 E:住宅の状況 2)「梅子おばあさんの縁側日記」＜前半＞を読む	資料－2 資料－3	8
	3. 梅子おばあさんがかかえる生活の困難	「梅子おばあさん」は、どのような生活上の困難を抱えているか？ ＜例＞・ 段差や階段が不便 ・ 食事の支度や後片づけがおっくう ・ 昼間ひとりの時が多く不安 ・ 他者とのコミュニケーション不足 ・ 入浴はどうする？ 買い物はどうする？ など	発問 1・2人の生徒に意見を聞く	2
	4. 生活の困難の改善方法	「梅子おばあさん」が困っていることと、その改善方法をグループで考える ①困っていることを各自2つあげ、ブルー付箋に書く ②その改善策を、それぞれピンク付箋2枚に書く ③各自が書いた付箋を、ブルーとピンクごとに模造紙にKJ法でまとめる ④困っていること・改善策にタイトルを付けてまとめる	模造紙のまとめ方サンプル 付箋に名前記入の指示	20
まとめ	5. まとめと発表	1) 1～2グループが代表して、模造紙を黒板に張り、まとめた内容を説明する 2) 発表しないグループは、それ以外の内容を追加していく	グループの1人が発表 他グループからも意見が出る	7
次時	次時予告	介護保険制度によるサービスの利用によって、梅子おばあさんの生活はどう改善するか		1

表－3 学習指導案 「介護保険制度と高齢者のQOLの向上」（2時間目）

本 時 の 指 導 計 画

指導 過程	学習内容	学 習 活 動	備 考	時間
導 入	前時の復習 本時の学習	前時に学習した内容を思い出す ・介護保険制度の概要について学習した ・梅子おばあさんの事例をもとに、困っていることと改善策を考えた 本時の学習内容 梅子おばあさんの「自分らしい生き方」(QOLの向上)の実現を考える ＜授業の流れ＞ 介護認定→ケア・プランの作成→ケア・プラン実施→おばあさんの不満 →不満の解決・ケアプランの変更→「自分らしい生き方」の実現	グループワークの指示 教師が確認 短冊を利用	2
展 開	1. 介護保険制度によるサービスの利用	介護保険制度利用の流れについて知る ①介護サービスや介護予防サービスを受けるまで ②「梅子おばあさん」は 要介護1 に認定された ケア・プランの作成 (ケア・マネージャー)	教科書p.57,図7	3
	2. ケア・プランの内容	ケア・プランの内容を知る 前時にグループでまとめた内容とケア・プランの内容を照らし合わせる ・住宅改修…手すり設置, 段差をスロープにする ・福祉用具のレンタル…歩行時のつえ ・デイサービスの利用…日中ひとりを解消, コミュニケーションの確保 食事・入浴サービスの利用	資料－4 模造紙・短冊を貼る 教科書p.47,図11 教科書p.57,表7 (おもな居宅サービス)	7
	3. ケア・プランの実施とおばあさんの不満	「梅子おばあさんの縁側日記」＜後半＞を読む 1)最初はサービスに満足し, 安心して生活できることを喜んだ 2)おばあさんには 不満 が生じていた 3)おばあさんの不満は何か? 考えてみよう(縁側日記から読みとる) 「他人と一緒の風呂はいやだ」 4)おばあさんの不満をどのように考えるか ＜例＞・これ以上はおばあさんのわがままだ, 我慢してよ! ・我慢させるのはかわいそう. 改善方法を誰かに相談しよう! * サービス提供だけではなく, 本人の満足を確認することが大切である	前掲 資料－3 発問 1・2人の生徒に聞く 短冊を貼る グループで話し合う 結果をグループごとに発表	15
	4. おばあさんの不満解決とケア・プランの変更	おばあさんの不満解決とケア・プランの変更 ケア・プランの変更 ①風呂場に手すりを設置(自宅での入浴が可能) ②訪問介護サービス(ホームヘルパー)の利用 (入浴介助, ひとりで過ごしている間の見守り)	短冊を貼る 変更内容を板書	5
	5. 地域における高齢者福祉サービス	「地域福祉サービス」があることを知る ・配食サービス(炊事・後かたづけの不安を解消)…1日1食 ・地域包括支援センター ・地域の高齢者対象に生涯学習・社会参加・生きがい対策など	教科書p.49 教科書p.49「高齢社会対策基本法」	3
	6. 梅子おばあさんのQOLの向上	介護保険制度や地域福祉サービスの利用を通して, 梅子おばあさんの生活はどのように改善されたか, まとめる ＜改善されたこと＞ ①住宅改修により日常生活の安全が確保された ②精神的に楽になった(本人・家族ともに) ③コミュニケーションの機会が増えた	板書	5
ま と め	7. まとめ	梅子おばあさん… <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> <div style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">{</div> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> 富士男が支える＝家族が支える 介護保険制度が支える＝社会が支える 配食サービス・生きがい対策＝地域が支える </div> </div> 梅子おばあさんの「自宅で自分らしく生活したい」希望実現＝QOLの向上	板書	2
	ふり回りレポート	「介護保険制度と高齢者のQOLの向上」の授業全体をふり返って, 理解したこと, 気づいたことをレポートにまとめる	資料－5 【ふり回りレポート】の用紙配布	7
次 時	次時予告	高齢期の生活設計と生活の課題		1

介護保険制度とは(介護の社会化)

１) 成立と制度の目的

2000年４月施行

- 目 的：①高齢社会の現状を背景に，高齢者の自立した生活を支える。
②介護負担を社会全体で分け合い，孤立した家族を解放する。

2006年４月改正施行

- 改正目的：①自立高齢者を増やす予防重視。
②介護サービスの質の向上。

2012年一部改正・施行

- 改正目的：地域包括ケアシステムの構築
①住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する。
②高齢者が住み慣れた地域で生活するために必要な定期巡回・随時訪問等の新たなサービス。

２) 保険料と受給の対象者

- ①40歳以上の国民が保険料を負担（高齢者は年金から徴収）する。
②65歳以上（原則）で要介護状態にある人がサービスを受給する。

３) 利 用 料

サービス利用の際に，費用の10%を自己負担する。

資料－２ 「梅子おばあさん」の事例から具体的に考えてみよう！

花川 梅子おばあさん

A: 身体的状況

83歳，リュウマチの症状が２年前から悪化。心臓弁膜症もあり数回入退院を繰り返す。
最近自宅の玄関の段差につまずき転倒し，腕を骨折したが完治。
トイレ，外出などでは動作が不安定な状況。

B: 日常生活の状況

更衣は骨折した左腕が余り曲がらずに不自由である。室内はつえ歩行，屋外は家の近くだけ歩く。
玄関や室内の段差・２階への階段は介助が必要，入浴には不安がある。
息子(富士男57歳)と二人暮らしで，日中は息子が仕事で不在。
簡単な炊事は本人がするが，重い鍋を両手で持つことができない。面倒で，昼食を抜くこともある。
最近火を使うことに不安を感じている。掃除と買い物は息子がする。

C: おばあさんの希望

できるだけ自宅で，安全に安心して自分らしく生活したい(施設入所は考えていない)
炊事・後かたづけの負担を解消したい。

D: 息子の希望

普段の日は仕事にでているため自分で介護ができず，母親が自宅で安心して暮らせるようによい方法がないか考えている。

E: 住宅の状況



玄関：段差がある



階段：勾配が急



お風呂場：入るのに足を
上げなくてはならない

資料－3 梅子おばあさんの縁側日記

<前半>

2012 年 11 月 12 日(月曜日)

天候:朝方は曇っていたが、午後からみぞれ

天気のせいか、リュウマチで足が痛い。それでも今日は久しぶりに近くのスーパーに買い物に行ってきた。今日は息子の好きなおでんを作った。入浴後 8 時に寝る。富士男は夜 9 時過ぎに帰宅し、いつものように私に声をかけてくれた。夕食はめったに一緒に食べられず先に布団に入ったが、富士男も喜んで食べているようであった。

<省略>

2013 年 3 月 21 日(木曜日)

天候:朝は晴れて少し暖か、午後から雪がちらつく

久しぶりに日記を書く。3 月に入って間もなく、朝、新聞を取りに行つて玄関の段差につまずき転んでしまった。息子がすぐ車で救急病院に連れて行ってくれたが、その日のことはあまり覚えていない。腕を骨折していた。幸い左腕のため 2 週間程度で退院し、どうにか日常生活は困らずにすんだ。しかし気温が下がると痛みがある。家のこともあまりできず、息子にも迷惑ばかりかけてすまないと思う。トイレや入浴も大変になってきた。この先どうしたらよいのか不安だ。

2013 年 5 月 7 日(火曜日)

天候:くもりのち晴れ

連休中、富士男が家の中を掃除してくれた。今日は午後から仕事を休んで、介護保険の利用を役所に申請に行ってくれた。人様のお世話にはなりたくないと思っていたが、富士男にもこれ以上負担をかけられず、介護保険サービスとやらをお願いしてみるしかないと思う。しかし初めてのことからうまくいか不安だ。

<後半>

2013 年 6 月 7 日(金曜日)

天候:晴れのち曇り

今日は介護保険の認定審査のために、区役所から紹介された人が訪ねてきた。息子と一緒に話をしたり、質問に答えたり、立ったり座ったりの動作をした。自分の生年月日も聞かれたが、それを忘れて言えないところまで私はばけていない。少し疲れて昼寝をした。午後 3 時頃久しぶりに縁側に座って庭の朝顔を眺めた。40 年近く暮らした我が家だから、ここでずっと最期まで暮らしたい。夕食は久しぶりにおでんを作った。重い鍋を持てずにいつまで食事の支度ができるか、ふと不安になった。

2013 年 6 月 19 日(水曜日)

天候:くもり、夕方から小雨

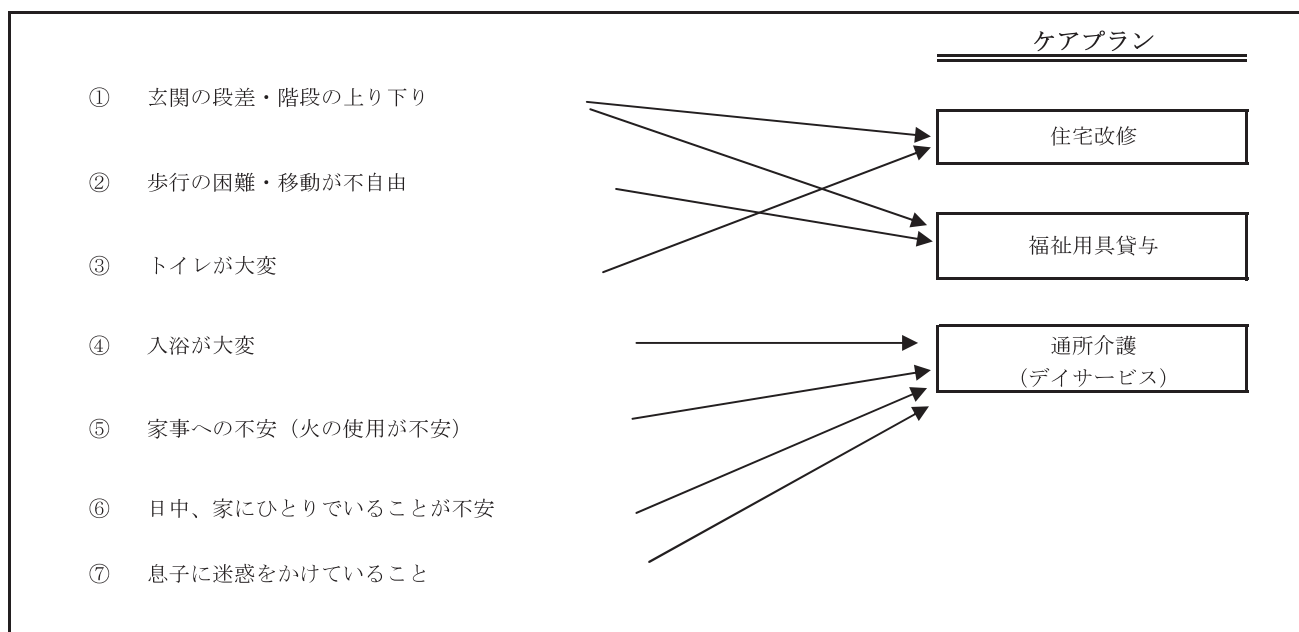
今日、はじめてデイ・サービスセンターに行ってきた。迎えのバスに乗り、あちこち回って他の人も乗り込み、15 分くらいでセンターに着いた。年寄りばかりだ。みんなでラジオ体操をしたりして過ごし、その後昼食を食べて風呂に入つて帰ってきた。初めてなのでとても疲れた。これから毎週水曜日にはセンターに行くことになった。センターに着ていく服も考えなければならず、脱ぎ着の度に左腕が痛む。夜 7 時過ぎに寝る。

2013 年 7 月 3 日(水曜日)

天候:晴れ、のちにわか雨

センターに行ってきた。だんだん慣れて、話しかける人も何人かできたが、みんなと風呂に入るのはなんだか恥ずかしい気がする、のんびり入れない。やっぱり家の風呂にゆっくり入れたらなあ……と思う。買い物にも最近は一人で行けないことが多い。今日は久しぶりに冷蔵庫にある材料だけでおでんを作った。この先ももっと何もできなくなったらどうしたらいいのだろう。息子は、仕事から帰ってゆっくり食事をしている様子だった。

資料－４ 梅子おばあさんが、困っていること（まとめ）



資料－５ ふり返しレポート

ふり返しレポート

1年 組()グループ 氏 名:

「介護保険制度と高齢者のQOLの向上」の2時間の授業全体をふり返って、あなたが理解したこと、気づいたことをまとめなさい。

資料一 6 梅子おばあさんのある一日

0時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時
いつ・何をして	就寝 トイレ				起床	身支度（着替え・洗顔） 新聞を読む 家事雑事	ラジオ体操 休息 朝食の準備	薬を飲む・お茶 富士男出勤 食事の後片付け 花の水やり	着替え・出かける準備 通院（バス） 診察・投薬	友人と出会う・立ち話 友人とバスに乗る バス停まで歩く 病院を出る	スーパーに寄り買い物 ※1 バスを降りる	
どこで	自室 トイレ				洗面所 自室	居間 洗面所	台所 居間	台所 居間	外出 自室	外出 病院	バス	
だれと	ひとり						富士男	ひとり		ひとり 看護師・		

12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時
いつ・何をして	帰宅・着替え 休息 夕食（やまかけうどん） 星寝	休息 テレビ	夕食の準備（おでん） 夕食	庭の朝顔を見る	夕食	食事の後片付け 休息 入浴の準備	お風呂 休息・テレビ 日記を書く 着替え・就寝準備	ベットの 本を読む	富士男が帰宅（会話） 就寝			
どこで	居間 自室	居間 自室	台所 居間	居間 縁側	居間 縁側	居間 洗面所 台所	浴室 居間 自室	自室	自室	自室		
だれと	ひとり				ひとり				ひとり	ひとり		

※1 スーパーでの買い物は宅配サービスを利用

※2 松子さんは近所の友人(76歳)